

広域藻場モニタリングの手引き

水産基盤グループ

研究の背景・目的

近年、磯焼けは全国的に進行し、急激に藻場の衰退や消失が起こっています。気候変動やそれに伴う植食動物の摂餌の活発化による藻場の分布の変化は広範囲に及ぶため、市町村、都道府県単位で確認が必要です。昨今、人工衛星、航空機、無人航空機（ドローン等）による空中写真から広域の海洋環境を把握する技術が飛躍的に発展し、広域的に藻場の分布や広がり把握することが可能となってきました。漁業者・漁協や市町村・都道府県の水産職員等の関係者が効率的に藻場を把握できるように、水産工学部では上記の技術を活用した「広域藻場モニタリングの手引き」を作成しました。（2021年3月に水産庁から公表、https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_guideline/）

研究成果

本手引きでは、藻場の広域調査の方法を対象海域の広さによって2段階に分けて整理しました。初めに地先の比較的狭い範囲を調べる手法としてドローン空撮・音響測量による調査を取り上げ、次に市町村・都道府県単位といったより広い範囲で効果的な手法として衛星画像・航空写真による調査を紹介しています（図）。また、これらの広域調査の方法で藻場を把握する際に必要となる現地データを潜水観察・船上観察で取得する方法についても説明しています。そして、各手法について取得情報や適用範囲、水深、コストや民間委託の概算を整理しています。

波及効果

「広域藻場モニタリングの手引き」を活用して、効率的に地先や市町村、都道府県の藻場のモニタリング・管理を行うことが可能になると期待されます。

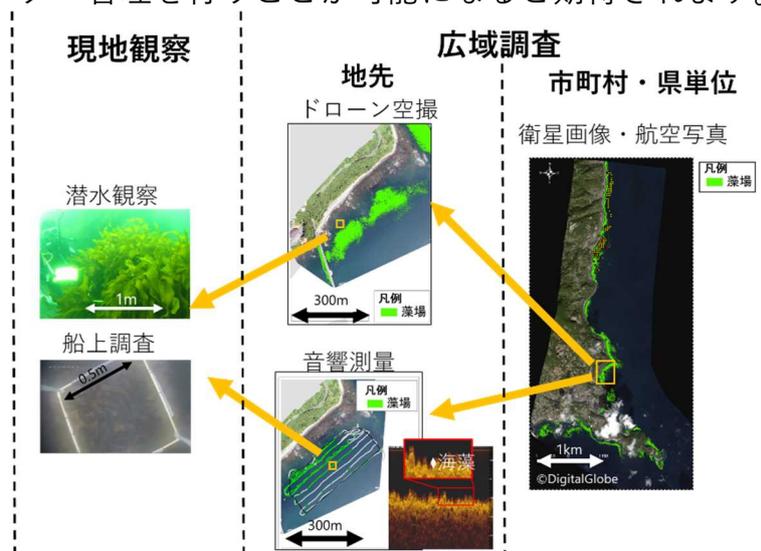


図.本手引きで紹介する各調査手法が対応する藻場情報と調査範囲のイメージ。

（本手引きは水産基盤整備調査委託事業「藻場回復・保全技術の高度化検討調査」の一環として神奈川県と水産土木建設技術センターと共同で作成したものです。）

（佐藤允昭）